



碧南ロータリークラブ週報

第2280回例会 平成17年8月24日(水)

●会長 岡田 超勇 ●幹事 亀山 裕一 ●SAA 長田 豊治

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール

■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail:info@hekinan-rc.jp

■会報委員 杉浦昌裕・角谷信二・清澤聰之・岡本明弘

超我の奉仕

2005~2006年度
国際ロータリーのテーマ



● 齊唱

ロータリーソング「ロータリ賛歌」

● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子

会長挨拶

マルチプルポールハリストフェローバッヂの伝達



井上達夫君

岡田会長

お盆も過ぎまして、少し涼しくなりました。まだまだ暑さが続くと思いますので皆さん体には充分気をつけていただきたいと思います。

本年度ロータリークラブの定款、細則について少し検討しています。亀山幹事とロータリー情報委員との協同作業により素案作りをしています。クラブの定款については標準定款を使用しますので変更するところはありません。細則につきましては、各クラブの運営にあった細則を作れというのがR I の考えです。基本的には、現在行っている事に細則を合わせたらどうかと言うことで素案作りも其の点に重点をおき行っています。ただ一つ会長ノミニーの創設につきましては、定款を見ても少しわかりづらいところが有り検討中であります。今までの役員、理事は、立候補制から指名委員会を設置し指名制へ又委員会の設置では、三年委員会、社会奉仕委員会、職業分類委員会を少しづつ直していきたいと、思っています。まだまだ沢山有りますが、理事会にかけながら理解の出来る又、理解しやすいものにし、私たちが運営する上でベターな細則にしなければならないと思います。

幹事報告

・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。

・本日メールボックスに現行細則第8条に基づき当クラブの充填・

未充填職業分類表を入れておきました。定款改定後、職業分類表

の取扱いは随分変わってきており、最新の推奨細則には上記規定は既に無く、RJ、2760地区でも随分以前より職業分類表は絶版になっています。今回2600地区より参考に最後の1冊の分類表を取り寄せました。

・役員・理事の皆さんのメールボックスには細則改定素案（第2案）を入れさせて頂きました。

9月理事会でご意見を頂きたいと思いますので盆休み中に郵送させて頂きました第1案と併せてご検討をお願い致します。



亀山裕一幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 77名（内出席免除者 15名）出席者 65名

出席対象者 54／62名	出席率 87.1%
欠席者12名(病欠者0名)	前々回修正出席率 100%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 井上 達夫君 PHFバッチをいただきました。11月の月間には改めてお願ひしますが前もって財団委員会のPRをさせていただきます。
- 長田 昌昇君 神谷先生ありがとうございます。
- 加藤 良邦君 ①久しぶりに例会に出席させていただきました。
②お蔭様にて盆の行事終えることができました。
- 奥谷 弘和君 日本税理士会連合会の役員が回っていました。亀山幹事をはじめ皆様にこれまで以上にご迷惑をかけることになろうと思いますが、よろしくお願ひ申し上げます。
- 山中 寛紀君 本日は私の下手な話にお付き合い頂く事になり恐縮ですどうか數十分間我慢して頂ければ幸甚です。
- 堀田 益隆君 本日マイカー納車です。新美雅浩さんにお世話をになります。

卓 話

「旅と医学」 会員 山中寛紀君

我が国における海外旅行者の数は年々増え続けておりとどまるところを知らないのが現状かと思います。しかし、これまで国内では見られなかったようなウイルスや動植物の移入によって、私たちの生活や心身の健康がある意味脅威にさらされていることも否めません。さらに海外における医療事情は本邦とは当然違っており、海外旅行中何らかの医療行為を受けざるを得なくなった場合など、様々なトラブルに巻き込まれる可能性もあります。私が一番怖いと思うのは今日本では根絶されたと思われます狂犬病です。これに罹ると100%死にます。予防接種、直ちな処置を必ずしてください又アメリカでは、コウモリによって罹ると言われています。東南アジアへ行かれた時には絶対犬に咬まれないで下さい。

3年前の平成14年秋、たまたま目にした医療雑誌「日経メディカル」で、日本旅行医学会という学会が立ち上がったことを知りました。もともと一般医療には少々マンネリ化を感じ、何か目新しい趣味と実益を兼ねた分野に目を向けたくなった私は、早速この学会のホームページにアクセスし入会手続きを終え、以降平成15年春に開催の第二回旅行医学会総会から毎年総会にて興味深く各演題を拝聴しております。

毎年1600～1800万人の日本人が海外への旅行に出かけています。その中で旅行中に脳血管障害や心筋梗塞で入院治療を受ける患者数は年間700人以上にのぼると推定されています。さらに、この数字は旅行会社の経験を聞き取り集計したものであって、その実体は全く判っていない状況でこれよりも軽症の疾患を加えれば相当数にのぼることが容易に想像され、これらの疾患は、適切な初期治療を行えば救命し得る可能性が高い。また日本人の主な出国先である、アメリカ合衆国488万人（約22%）、イタリア8.9%、韓国8.8%、中国7.1%などの国々では初期治療に必要な医療技術、医療設備は十分に整っている。しかしながら、これらの要治療者が言葉の問題や地域の医療事情が不確実であるために、海外においては適切な高度先進医療の恩恵を享受できないいる場合も多いと聞き及びます。つまり、これらの旅行者でもある患者さんたちを訪問国で適切に



山中寛紀君

治療が受けられる体制が早急に望まれるものである。旅行者の疾患は突然襲って来るものであり、救急医学的な考えに基づく対応法が必要となります。

また、近年は障害を持つ人々、高齢者が積極的に海外へ出かける傾向にあり、その積極性は喜ばしいものである。しかし、実際に海外で医療サポートを受けながらの旅行には障害が多くその為に旅行を取りやめるケースも多く見られる。一方で外国からの日本訪問者が、日本国内での医療サポートを求める場合も増えているが、日本国内でも対応は十分ではない。旅行者の医療サポートの実用を調査し、具体的な提言と実際の旅行者へのサポートを行うことは急務になっています。

さらには、世界の多くの国々を訪れる日本人が多くなっているにもかかわらず、訪問地の衛生状態、医療状況に関する適切な情報を得られないことが多い。その為、欧米人に比べてワクチン接種に関する意識が低く、健康を守るために必要なワクチン接種を受けずに海外に出かける旅行者も多く、感染の危険度は高まっている。また交通の高速化により国内に発症前に持ち込まれる危険度も増してきている。海外渡航者におけるワクチン接種に関する啓蒙や帰国後の感染症管理に関する検討も今重要な課題となってきている。

しかしながら、これらの問題は医師のみの活動で解決出来るものではなく、旅行に関わる様々な職種・業者を含めた検討と対応が必要となってくる。旅行の医学に関する集会は散見されるが、救急医学的立場に立ち、旅行者の健康サポートを主眼とした組織は現在我々の知る中にはない。そこで、研究・教育・サービスの提供を国内で行い、旅行者の健康と安全を考える「日本旅行医学会」を設立することを企画しました。

「日本旅行医学会」は、旅行医学に興味を持つ各科の医師、看護婦、公衆衛生の専門家を中心として、旅行に関する研究機関、関連事業者を取り込んだ会とする計画です。その活動としては、旅行医学に関する情報の収集、研究、教育、情報提供を行うことにあり、さらに高地における医学、旅行の妊婦に与える影響、感染症、熱帯医学などの分野に関する情報の収集、研究、教育、情報提供も包含していきたい。その為には、世界の医療機関や学会との情報交換、提携も視野に入っています。

「日本旅行医学会」は単に医学的な議論の場に終わらずに、実際に旅行者にとって有益な方法論、手段、対策の提示を行い旅行するすべての人々に有益な情報を常に発信し続ける会としていくことを理念としています。

次回例会案内 平成17年9月7日（水）

ガバナー補佐訪問

ガバナー補佐 杉浦義尚氏 ガバナー補佐幹事 鈴木政幸氏